

# 化研がヨウ素系の消毒剤

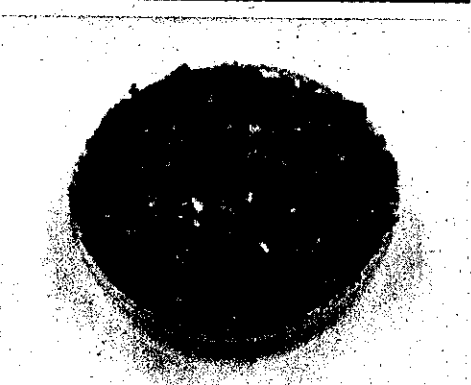
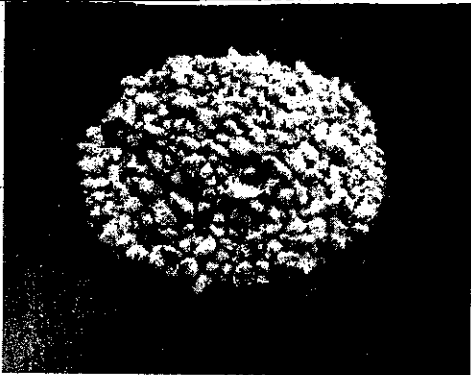
## 10分で100万分の1に減菌

先進化学技術開発を手掛ける化研(水戸市)はヨウ素系の消毒剤を開発した。鳥インフルエンザウイルスなどに対し、短時間で抗菌・抗ウイルス作用を発揮する。今後は大学などと効能に関する試験を継続しつつ、建材メーカーと協力し、抗菌・抗ウイルス性を持つ農畜産向け消毒剤や建築資材などの開発・量産化を進めていく。

### 鳥インフルなどに作用

新たに開発したのは「ヨドックス消毒剤I。dox」と呼ぶ無色透明の消毒剤で、既に特許申請と商標登録を済ませている。約10分間でウイルスを1000万分の1まで減菌できる。京都産業大学との共同研究で、抗鳥インフルエンザウイルス作用を確認した。今後は京都産業大や京都府農林水産技術センターなどと連携し、豚コレラやエボラ出血熱など他のウイルスへの効果も確かめていく。

ヨドックス消毒剤は液体のほか、日向土や鹿沼土、赤玉土など火山性の軽石を組み合わせた「ヨドックス土粒」も開発した。ヨドックス消毒剤は液



火山性の軽石を組み合わせたヨドックス土粒(鹿沼土、写真上)は開発済みの「ヨドックス土粒」も既に販売している。活性炭(写真下)も既に販売している。

「ヨドックス土粒」も開発。

軽石のカルシウム成分とヨドックスが反応し、消毒効果が雨水などに流されにくくなる。土粒は畜舎などで散布型消毒剤として使うことも可能だ。

ヨドックス消毒剤を活用した新製品の開発や量産技術の確立は建材メーカーのエアランドエマテリアルが担う。まず農畜産向け消毒剤や壁材などを開発し、3月をめどに本格生産を始める予定だ。

を抑えられる見通しが立ち、効果はほぼ同程度という。ヨドックス消毒剤はpH(水素イオン濃度)4.5の弱酸性で、アルカリ性が強い消石灰に比べ人体に優しいのも特徴だ。

このほか、有色のヨード活性炭は用途素材に色が付いてしまうのに対し、ヨドックス消毒剤は無色透明のため、用途開発の幅が広がる利点もある。

化研は今後、用途に応じてヨドックス消毒剤とヨード活性炭を拡販していく考えだ。

化研は既に抗菌・抗ウイルス性の「ヨード活性炭」を開発している。消毒剤として広く使われる消石灰は大腸菌や鳥インフルエンザウイルスへの効果が5日以内に消滅するのに対し、ヨード活性炭は効果が1カ月以上持続する。ただ、原材料価格が消石灰の10倍程度かかり、量産化にはコスト削減が課題だった。

ヨドックス消毒剤はヨード活性炭に比べコスト